
一般口演 | 1-08 電気生理学・不整脈

一般口演-16

QT延長症候群

座長:

立野 滋 (千葉県循環器病センター)

泉田 直己 (曙町クリニック)

Fri. Jul 17, 2015 10:00 AM - 10:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)

II-O-11~II-O-15

所属正式名称: 立野滋(千葉県循環器病センター 小児科)、泉田直己(曙町クリニック)

[II-O-13]QT延長症候群における運動負荷による QT/HR slope

○高橋 一浩, 鍋島 泰典, 差波 新, 中矢代 真美 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児循環器科)

Keywords: QT dynamics, provocative test, long QT type 3

【背景・目的】 QT延長症候群 (LQT) では、QTダイナミクスが異常であることが報告されている。運動負荷による QTダイナミクスを検討する。【対象】 遺伝子型が判明している未治療の QT延長症候群 15 名 (LQT1 型 2 名、2 型 2 名、3 型 10 名、7 型 1 名)、及び不整脈精査のため運動負荷を施行した基礎心疾患や QT延長を認めないコントロール群 15 名の計 30 名。【方法】 運動負荷中の QT時間を自動計測した。運動負荷は、最大心拍数までの負荷中、およびそれ以降の負荷後回復期の 2 相に分けて解析した。QT時間/心拍関係を線形単回帰して求めた傾き (QT/HR slope) から QTダイナミクスを評価した。結果: QT/HR slopeは、LQT群はコントロール群に比し有意に急峻であった: 全運動負荷、 -2.05 ± 0.59 vs. -1.14 ± 0.26 , $p < 0.0001$; 運動負荷中 (Ex)、 -2.11 ± 0.70 vs. -1.18 ± 0.31 , $p < 0.0001$; 回復期、 -1.99 ± 0.50 vs. -1.12 ± 0.25 , $p < 0.0001$ 。QT/HR slopeは、LQTサブタイプ (LQT3 vs.non-LQT3) 間で差がなかった。結語: 運動負荷による QTダイナミクス評価により、LQT群を鑑別できる可能性があり、遺伝子検査適応のスクリーニングに使用できると思われる。但し、この方法では、LQTサブタイプを鑑別はできなかった。